

2009年度 岩本ゼミ活動報告

佐藤友香

2009年度岩本ゼミは主に、3回生10名（うちオブザーバー1名）と2回生10名で活動した。今年もかなりの大所帯となったが、以下に大まかな活動報告をする。

<春合宿>

年度始めの大きな行事と言えば春合宿だが、今年は4月に金沢に行った。全体のテーマは「世界金融危機について」であり、各々がテーマに関わるトピックについて発表する形式をとった。様々な背景や要因が絡み合って起こった金融危機。それを詳しく見ることができ、とても興味深いものであった。2日目は金沢市内を観光した。城下街として栄えた金沢の町並みは美しく、日本海の幸も堪能できた。

<前期ゼミ>

さて、前期には Krugman Obsfeld の『International Economics～theory&policy～』の前半部分を輪読し、2回生と3回生がペアを組んで発表した。国際貿易論について学習したが、もっと議論を活発に行うことが出来ればよりよいものとなっただろう。また、サブゼミでは主に2回生がミクロ経済学を勉強した。

<夏合宿>

夏合宿は9月に三重県鳥羽で行った。今年も例年通り、インゼミ班にわかれて発表した。ディベートは高経のテキスト『開発主義の暴走と保身』（池尾和人著）を輪読・発表した。ISFJは、三回生は夏休み中にあった中間報告の内容を、2回生は分担して題材に関連する勉強の成果を、それぞれ発表した。私が所属していた三大学班は論文のテーマを決められていなかったため、各自関心ある内容を発表した。2日目には、伊勢神宮周辺を観光・散策した。

<後期ゼミ>

後期は3つのインゼミに分かれて活動し、途中経過を適宜発表した。以下に各班の詳しい活動報告を書く。

ディベートは例年通り高崎経済大学矢野ゼミと行ったが、今年は大分大学柴田ゼミも参加した。京大は矢野ゼミとのディベートしか行っていないのでここでは柴田ゼミについては割愛させていただく。今回のテーマは「新 BIS 規制はプロシクリカリティか否か」とい

うものである。京大側はプロシクリカルだと主張し、BIS 規制導入後に金融機関の貸し出し態度が厳格になっていることを簡単なモデルとデータで示した。矢野ゼミ側は銀行のリスク対応が迅速化することで不況増幅を妨げると主張した。岩本ゼミは相手のデータの裏付けが乏しいところを攻めた。最大の弱点である好況増幅効果を証明する術がなかったが、矢野ゼミからの指摘はなかった。結果は去年の借りを返す形となった。今年は議論の時間を多くとったので、有意義なディベートを行えたと思う。2回生の2人を含め、全員でコンセンサスを持ちながら最後まで進めることができた。準備や司会、審判の手伝いをしてくれたゼミ生に御礼を述べたい。

ISFJ 班は夏の間発表から活動を本格化させ、3班中最多の人数を生かして本番に向けて準備していた。12月に慶應義塾大学において発表会があり、岩本ゼミは国際金融の文科会に所属した。論文のテーマは『アジア債券市場の育成』であった。結果は、分科会でトップの評価をもらって1月に政策提言会に参加する権利を獲得。国会議員の前で発表し、非常に有意義な経験ができた。夏休みから3回生中心で忙しい中進めてきた論文が評価されたのは喜ばしいことだが、ISFJの主旨である政策実現性という点があまり考慮できていなかったという反省がでた。後輩にはその点を忘れないでより説得力のある政策提言を考えてもらいたい。

三大学班は例年同様、大阪大学の阿部ゼミ・神戸大学の中西ゼミとの論文発表会を京大において開催した。当初農業問題について取り上げようとしたが、我々が目標にしていた結論にたどり着くための根拠を挙げるのがあまりに困難で、頓挫してしまった。そこで、現在話題にのぼることの多い環境問題に着目した。論文のテーマを『日中間における越境汚染問題と技術移転協力』とし、汚染国が越境汚染を認識しているかどうか、越境汚染に関して政策をとるかどうかで、汚染国・被汚染国の効用はどう変わるかについて、ダミー変数などを用いたモデルで説明した。3回生3人、2回生1人と人数は少なかったものの、その分まとまりがよかった。しかし発表の直前までバタバタしていて、余裕を持って発表出来なかったという反省が残った。

<後記>

個人的な感想としては、もっと主体性をもって何事にも取り組むべきだったと思う。自分のことで精いっぱい、周りをよく見るができなかったし、岩本ゼミをよりよくしていこうとする意識が足りなかった。これらの点で、私はゼミ長として至らなかった点が非常に多く、岩本先生はじめゼミのみなさんに多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びする。そしてここまで何とかやってこられたのも、一重にみなさんの優しさと協力があつたからであり、深く感謝したい。

来年度から岩本ゼミが3・4回生対象のゼミとなり、これまでとは少し雰囲気が変わってくると思うが、後輩のみなさんには、自分達がゼミを作り上げていくのだという意識を常に持ってほしいと思う。